

卓越大学院プログラム 事後評価結果

機関名	東北大学	整理番号	1901
プログラム名称	変動地球共生学卓越大学院プログラム		
プログラム責任者	山口 昌弘	プログラムコーディネーター	中村 美千彦

卓越大学院プログラム委員会における評価

<p>〔総括評価〕</p> <p>A：計画どおりの取組が行われ、成果が得られていることから、本事業の目的を達成できたと評価できる。</p>
<p>〔コメント〕</p> <p>卓越した学位プログラム、「知のプロフェッショナル」を養成する体制等の構築については、平成27年に設置されていた「学位プログラム推進機構」を令和3年に「高等大学院機構」へと発展させ学位プログラムの全学的マネジメントとプログラムの質保証が行なわれてきた点、本プログラムが6研究科12専攻から多様な学生を受け入れている点、人文社会学系学生の比率も16%に達している点、7研究科15専攻1研究所と7つの海外トップレベル大学から教員の参画を得ている点、英語講義の強化・海外派遣・英語研修が進められている点、連携企業・団体が15機関に達している点等、多様でグローバルな高度人材教育研究環境が構築されつつあり評価できる。</p> <p>修了者の成長については、スノークリスタル型人材の獲得目標（専門力・多角的能力）の修得状況に関する学生の自己評価結果から、自身の成長について高い自己評価が得られている点、研究成果の受賞数が累積52件と多い点などが評価できる。その一方で、リスク分野の博士号取得者数と企業特別研究員の数に関するKPIについては目標値を下回っているため、受入学生数増加と履修生の辞退者数低減に関する対策について、今後一層の検討が求められる。</p> <p>キャリアパスの構築については、キャリアパス講義や企業フォーラムを通じて、多様なキャリアパスが形成されており、全修了者が問題なく就職先を得ている点、就職先はアカデミアと非アカデミアがほぼ半々とバランスが取れている点が評価できる。特に、博士課程教育リーディングプログラムの複数の修了者をキャリアパス講義の講師として招き、産官学共同による人材の再生産サイクルを構築する試みは、今後の発展が期待できる。</p> <p>大学院全体への波及効果及び事業の継続・発展については、令和3年に設置された高等大学院機構を改組して、令和9年度に高等大学院を設置し、各研究科の教育機能を束ねて大学院全体を一元管理する体制を構築することが計画されている。これによって、学位プログラムの拡充、大学院教育の推進、学生のリクルート・選抜・経済的支援・キャリア形成支援等が一括管理される形で高度人材を輩出する仕組みが構築されることは評価できる。また、優れた学位プログラムが構築されており、資金調達においても確実な計画が立案されていることから、本プログラムの補助期間終了後に設置される高等大学院が速やかに機能することで、本プログラムの順調な継続・発展・拡大が期待される。</p>